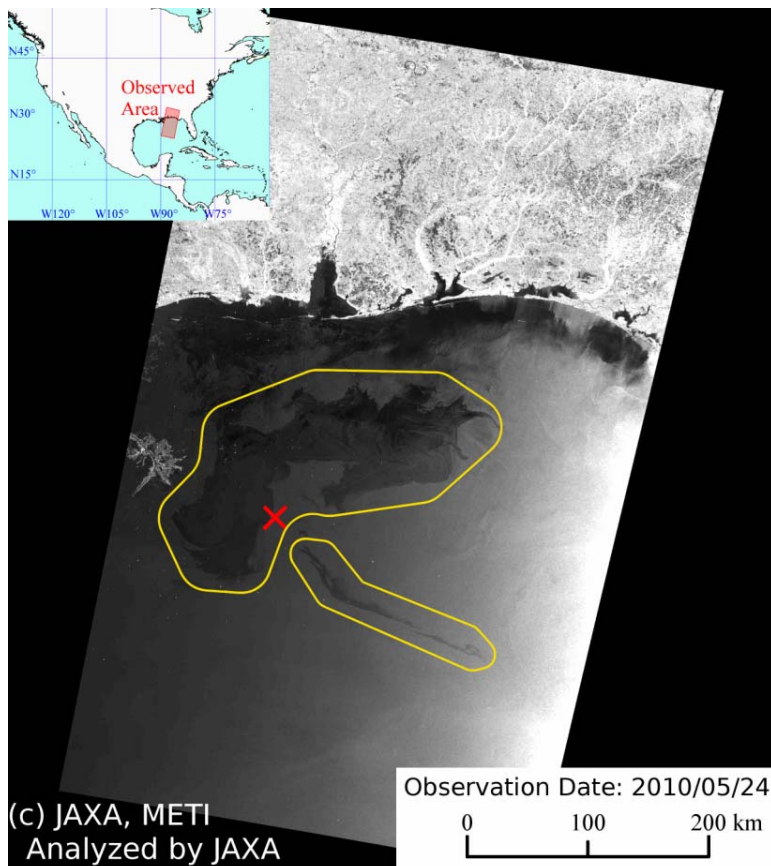


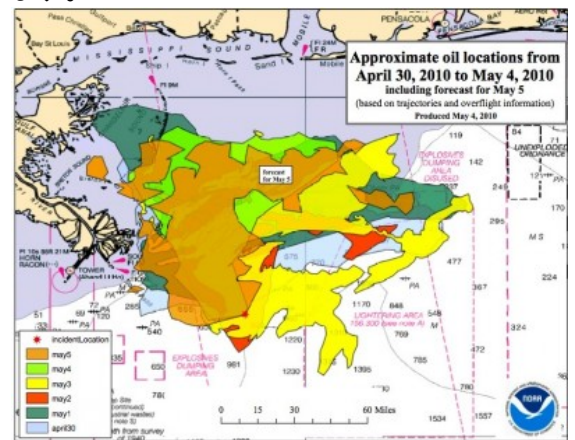
# 「だいち」が捉えた メキシコ湾原油流出事故

2010年4月20日に米国ルイジアナ州ニューオーリンズ沖合の海底油田で発生した天然ガスの噴出と爆発に伴う海底からの原油の流出はその後にも継続しており、一日27億円の損失をだしているといわれています。宇宙航空研究開発機構では「だいち」に搭載されたレーダー(PALSAR)を用いて2010年5月24日1時20分(日本時間)に現地を観測し、いまだに広大な範囲が油に覆われている事を確認しました。



図①は PALSAR の広観測域モードを利用して、東西方向350km、南北方向700km のオイル流出状況を観測した画像です。×印は新規海底油田の爆発地点を示しています。

レーダーは自分で信号を発射し、地表からの反射を観測します。海面を漂う油は暗く見える特徴がありますので、画像中暗いところは油と考えられます。まわりのやや明るいのは海面です、また、陸域はそれ比べて明るく映ります。油で覆われた領域は黄線で囲った部分で、大きさは約250km 四方に広がっています。



4月30日から5月5日までの原油の状態(C) NOAA



図②は野口宇宙飛行士が国際宇宙ステーションに搭乗中の5月4日に撮影した画像です。太陽光が海上を漂う油により全反射し、そのときの油の広がりを確認できます。2枚の画像の比較から、5月4日以降、油領域が大きく広がった事がわかります。

原油流出量は1日500キロリットルから4000キロリットルと推定されており、流出した原油は、すでにミシシッピ川沿岸の湿地帯に漂着しているほか、メキシコ湾内を時計回りに流れる高速の暖流『ループ・カレント』に流れ込んで流出範囲が拡大しています。

JAXA では、今後も当該地域を継続して観測する予定です。